

現行の学習指導要領の成果と課題，見直しに関する意見（例） — 芸術，技術・家庭，情報 —

音楽，図画工作，美術，芸術

○教育課程部会での意見	<p>○日本人あるいは，社会人としてしっかりとした素養を身に付ける必要がある。そのためには，日本の伝統や文化，歴史の教育が重要である。</p> <p>○美に対する教育，文化に対する教育をしっかりするとともに，その機会の充実が必要。すばらしい作品やモラルの高い文章を子どもたちに読ませるべきである。</p> <p>○芸術・文化について，生徒の理解が伸びる方向できっかけを提供していくことが必要。</p> <p>○心を伝えるということ，感動を伝えるということが一番の基本である。教育現場と文化は離れがちであるが，文化，情緒，心を教育の中に取り入れることが大切である。</p>
○義務教育特別部会での意見	<p>○芸術，体育，生活習慣，自然体験など，創造力や体力を身に付ける重要な活動の時数が減っている。</p> <p>○家庭科や書道といった，生きていく力を養う教科は減らすべきではない。</p> <p>○これからの日本は知的立国になる必要がある。科学技術立国であるのと同時に，文化芸術大国になるべき。教育の目的は国家・社会のためのみならず，ひとりひとりの国民が心豊かな人生を送るための基礎作りである。自立した個人の形成が一番重要だ。</p>
○豊かな心を育む教育の在り方に関する専門部会での意見	<p>○日本の伝統的な文化がもっている価値についてほとんど教えられていないのではないか。例えば庭をみて感動するなど感性的なものをいかにして育てていったらよいかを考えることが必要である。</p> <p>○日本人としての感性も大事にしていく必要があるのではないか。</p>

●音楽，芸術（音楽）

主な論点の柱	調査結果等に基づく成果と課題（例）
<p><b>①知識や技能等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を表現するために必要な知識や技能</li> <li>音楽を聴き，そのよさや美しさを理解し，味わうための知識</li> </ul>	<p>○楽曲を仕上げるのが目的になっている授業が見受けられる。表現したいイメージをもち，それを表すために必要とする技能，例えば，発声や楽器の扱い，読譜力などを身に付けさせる効果的な指導が必要。</p> <p>○へ長調及び二短調の視唱・視奏（読譜に関する知識・技能）を削減したことが，児童の負担を減らし，学習への意欲を高めたと考えられる。</p> <p>○共通歌唱教材である文部省唱歌などの日本の歌については，児童の積極的な取組が見受けられ，歌詞の難しさについては，学習指導の工夫によって解決できているようである。</p>
<p><b>②感性や表現力等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の感性を働かせて音や音楽を知覚し，曲想などを感じ取る力（感受）</li> <li>感受を基に，考え，判断し，表現を工夫する力</li> </ul>	<p>○「音楽的な感受や表現の工夫」を意識した取組が増えてきた。</p> <p>○合唱や合奏などの音楽活動は積極的に行われているが，音楽の諸要素の働きや曲想の美しさなどを感じ取らせる指導の充実が必要。</p> <p>○児童生徒に感性や表現力をはぐくむ鍵活動となる創作が，年間指導計画の中で十分に時数を割り当てられていない傾向が見受けられる。</p> <p>○音楽に対する解釈や味わいなどを，音楽用語を用いながら文章等で表すことができる能力を高めることが課題。</p>
<p><b>③学ぶ意欲等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現や鑑賞の学習内容に対する関心・意欲</li> <li>音楽を愛好する心情の涵養</li> </ul>	<p>○音楽科を「とても好き」「まあ好き」と回答した児童生徒は，小学生 65.1%，中学生 51.2%である。</p> <p>○多様な音楽にふれる喜びを引き出す学習指導の工夫によって，学習内容に対する児童生徒の関心や意欲を高めている。</p> <p>○創作に対して関心や意欲がやや低い傾向が見られるが，教師自身が苦手意識をもっていたり，十分な学習指導を行っていないためであると考えられる。</p> <p>○我が国の音楽・文化に愛着をもつとともに，西洋音楽を含む他国の音楽・文化を尊重する態度等をはぐくむことが必要。</p>

●**図画工作，美術，芸術（美術，工芸）**

主な論点の柱	調査結果等に基づく成果と課題（例）
<p><b>①知識や技能等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色，材料など造形に関する感覚</li> <li>・表したいことに合わせて，材料や用具を使うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○材料や用具を使うことや表現することを楽しむ中で技能を身に付けたり，造形感覚を高めたりしている様子がみられる。</li> <li>○「造形遊び」において，楽しい活動をつくり出すことに重点が置かれ，学習活動に当たっての題材の系統性や指導のねらいが必ずしも十分でない。</li> <li>○固定的な手順通りにつくらせたり，特定の表現方法に重点をおいて指導したりするなど，子どもの資質や能力が十分に発揮できない授業が一部に見られる。</li> <li>○自然や身近なものを観察し，形や色彩の特徴や美しさなどをとらえて描く力を育てる指導が十分でない。</li> </ul>
<p><b>②感性や表現力等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたこと考えたことなどをもとに豊かに発想したり，美しさや用途などを考えて構想したりする能力</li> <li>・感性や想像力を働かせて，対象のよさや美しさを感じ取り味わう能力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体全体の感覚を働かせて発想や構想，自分の思いなどを豊かにふくらませたり，風，水，場所などの特徴をもとに造形活動を工夫したりするなど，学年の発達に応じて，資質や能力を関連的・総合的に働かせるような指導が成果をあげている。</li> <li>○個別指導などで考える視点を示したり，いろいろな技法を提案したりするなど，具体的な指導の手立てを講じることにより，発想が高まっている様子がみられる。</li> <li>○情報や気持ちを伝えるために，形，色，材料などの特性を生かし，その効果を考え，相手に分かりやすく，美しく表現する力を育てる指導が十分でない。</li> <li>○子どもが主体的に考え，対象のよさや美しさを味わったり，美術文化への理解と愛情を深めたりするような指導が十分でない。</li> </ul>
<p><b>③学ぶ意欲等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現や鑑賞の活動に対する関心・意欲・態度</li> <li>・つくることの喜びや美術を愛好する心情</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図画工作科，美術科を「とても好き」「まあ好き」と回答した児童生徒は，小学生 73.1 %，中学生 51.9 % である。</li> <li>○子どもの授業への関心の高さ，時間を忘れて造形活動に取り組む意欲，完成時の喜び，など「関心・意欲・態度」が高い様子がみられる。</li> <li>○子どもの高い「関心・意欲・態度」を，発想の能力や表現の技能などの育成に結びつけていない指導が一部に見られる。</li> </ul>

●**芸術（書道）**

主な論点の柱	調査結果等に基づく成果と課題（例）
<p><b>①知識や技能等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現及び鑑賞の能力を育成するために知識や技能を身に付けること</li> <li>・筆などによる表現で，線質や墨色など表現に関わる知識や技能を身に付けること</li> <li>・鑑賞の能力を深めるために，書に関わる知識を身に付けること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書道 I において「漢字仮名交じりの書」を必修としたことにより，古典の臨書中心の技能偏重的な学習が少し是正されたり，生徒の身近な言葉を表現したりすることにより書に親しみを持って取り組むなどの成果が見られる</li> <li>○一方で，古典に対する理解や書写能力の低下も見られる。</li> <li>○中学校国語科書写から書道 I への学習の継続性，連続性が課題である</li> </ul>
<p><b>②感性や表現力等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことや考えたことを生かして豊かに発想したり構想したりする能力</li> <li>・自己の感性を働かせて書のよさや美しさを感じ取る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の表現力，発想力を生かした活動が多く見られるようになり書における個の育成などに成果が見られる</li> <li>○その反面書の美しさをより深く考えたりより広く発想したりする能力の育成に課題がある</li> </ul>
<p><b>③学ぶ意欲等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現や鑑賞の活動に対する関心・意欲・態度</li> <li>・学習活動を通して育成される書を愛好する心情</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導と評価の一体化を図る学習が成果をあげている</li> <li>○恒常的に生徒の書を愛好する心情の育成が課題である</li> </ul>

家庭，技術・家庭，情報

○教育課程部会等での意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校卒業で一人前という社会をもう一度取り戻すため，ものづくり教育や職業観を重視し，子どもたちの達成感やものづくりへの個性の反映などを実際に学び取らせることが必要。</li> <li>・日本のものづくりを支えている力を維持する方策の検討が必要。</li> <li>・生活者としての技術教育にとどまらず，科学技術のガバナンスを教えることがなされていないなど，主権者としての国民を育てるという観点の教育がされていない。</li> <li>・国際化，IT化，知的財産権，環境の問題，企業の社会的責任などが日本の社会全体として遅れている。世界的な事象がある程度理解できる素養を身に付ける必要がある。</li> <li>・家庭科や書道といった，生きていく力を養う教科は減らすべきではない。</li> <li>・ITの全面的な展開に子どもたちがのめりこんで，そこから離れられない状況があるが，これに対し，IT教育を無条件に進めることがいいのか，対極の考え方を示すのがいいのか。</li> </ul>
--------------	---

●家庭，技術・家庭

主な論点の柱	調査結果等に基づく成果と課題（例）
<p><b>①知識や技能等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に必要な基礎的な技術を身に付けている。</li> <li>・生活や技術に関する基礎的な事項や生活と技術とのかわりについて理解し，知識を身に付けている。</li> </ul>	<p><b>【家庭分野】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の家庭科の学習が「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた児童の割合は70.2%である。</li> <li>・中学校の内容「A(1)中学生の食事と栄養」の栄養素に関する内容や「A(3)衣服の選択と手入れ」の手入れと補修に関する内容において指導の工夫等が必要。</li> <li>・生活経験の違いや生活技能の低下に対応するための，実習等の時間の確保が課題である。</li> <li>・小，中，高等学校の学習の系統性について一層の検討が必要。</li> <li>・家庭生活の状況が変化しており，食に関する指導の充実，幼児や高齢者との交流や介護の基礎などの指導の充実等が課題である。</li> <li>・販売方法が複雑化する状況の中で，消費者トラブルや若者のカード破産等について，消費者教育の充実が課題である。</li> </ul> <p><b>【技術分野】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容「A技術とものづくり」と比較して「B情報とコンピュータ」の知識や技能の習得状況が良好である傾向が見られる。</li> <li>・他教科との連携に配慮した指導計画の作成が課題である。</li> <li>・「B情報とコンピュータ」と高等学校の「情報」に関する教科・科目との連携が課題である。</li> <li>・日常生活におけるコンピュータの普及に伴い，操作の方法の指導をどう扱うか，情報モラルについての指導を充実していくことが課題である。</li> </ul>
<p><b>②思考力や表現力等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活について見直し，課題を見つけ，その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。</li> </ul>	<p><b>【家庭分野】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の家庭科の学習を家庭生活で「とても役に立つ」「わりと役に立つ」と思う児童の割合は76.0%である。</li> <li>・学習した知識や技能を実生活で生かす指導の工夫が課題である。</li> <li>・小学校の「(8)家庭生活の工夫」における，題材構成の一層の工夫や家庭との連携が課題である。</li> </ul> <p><b>【技術分野】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のアイデアを生かせる題材の工夫と，実生活に生かす指導の工夫が課題である。</li> </ul>
<p><b>③学ぶ意欲等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や技術について関心をもち，生活を充実向上するために進んで実践しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の家庭科を「とても好き」「まあ好き」と回答した児童は63.7%である。</li> <li>・中学校の技術・家庭を「とても好き」「まあ好き」と回答した生徒は51.8%である。</li> <li>・ものづくりなど実践的・体験的な学習活動が多いので，児童生徒は完成する喜びや体験する楽しさを感じている。</li> </ul> <p><b>【家庭分野】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な態度の育成には，家庭生活に関心を向け主体的に生活に関わろうとする意欲を育てる指導の工夫が課題である。</li> </ul> <p><b>【技術分野】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の職業としてIT関係や技術開発等を選ぶ中学生の割合が，他国と比較して少ない状況にある。</li> </ul>

●情報

主な論点の柱	調査結果等に基づく成果と課題（例）
<p><b>①知識や技能等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付けている。</li> <li>・情報の収集・選択・処理を適切に行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目とも、知識と技能の習得状況はおおむね良好。</li> <li>・生徒の情報機器の操作技能等は向上している。</li> <li>・コンピュータの操作の仕方など、情報技術の習得に重きを置いた指導が多く、情報手段の特性や情報を適切に扱うための基礎的な理論、情報モラル、マナーや遵法精神などを含むバランスのとれた情報活用能力の育成が課題。</li> <li>・中学校技術「B 情報とコンピュータ」との連携が課題。</li> <li>・国語や数学など、他教科等との連携の強化を図る必要がある。</li> </ul>
<p><b>②思考力や表現力等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用の方法を工夫したり、改善したりするとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断をすることができる。</li> <li>・情報を目的に応じて表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目とも、思考力や表現力を育むための指導計画や教材の工夫が行われている。</li> <li>・情報を目的に応じて表現する力の育成については、おおむね良好。</li> <li>・体験的な活動を通じた情報モラルを育成する教材や指導法の工夫が課題。</li> <li>・発達段階に応じた問題解決能力を育成する教材や指導法の工夫が課題。</li> <li>・コンピュータの操作の仕方など、情報技術の習得に重きを置いた指導に占める時間が多く、合理的判断や創造的思考力、表現・コミュニケーションなどに役立てる力の育成が必要。</li> </ul>
<p><b>③学ぶ意欲等の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報や情報社会に関心を持ち、身の回りの問題を解決するために進んで情報及び情報技術を活用し、情報社会に主体的に対応しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習等の教材や指導計画の工夫によって、生徒の学習意欲はおおむね高い。</li> <li>・学ぶ意欲を育む指導については、おおむね良好。</li> <li>・コンピュータの操作の仕方などの情報技術を習得している生徒への手だてが不十分。</li> </ul>